〈卒業論文要旨（昭和46年度卒業生）〉

浦和市と大宮市の地理学的比較研究

石島規子

浦和市と大宮市は，都心から２０～３０ｋｍ離れた東京の北に隣接して位置している。古くから浦和は東京の「住宅都市」，大宮は「鉄道の町」といわれてきたが，現在における両市の性格に著しい相違があるか否かを，人口，工業，商業の三つの面から考察するのを本論文の目的とした。

浦和は大正１２年の関東大震災以後，鹿島台とよばれる洪積台地上から住宅地化がはじまり，大宮は浦和より少し遅れて，昭和９年の国鉄電化以後本格的に住宅地化がおこなわれだした。特にこの国鉄電化以後は，両市とも東京へかようホワイト・カラー層の受け入れが進んだ。第二次大戦末期には疎開及び戦災による流入が激しく，又，終戦直後から２～３年にかけては，東京の戦災による住宅不足等の理由から，東京へもどらず両市付近に居をかまえる人々が多く，人口が急増した。昭和２２年の両市の人口は，浦和約１０６千人，大宮約９１千人であるが，現在（昭和４５年１０月の国勢調査による）は両市とも，約２６９千人で2.5～3倍の人口増加を示している。この人口増加の原因としては，町村合併や自然増によるものよりも，東京の影響が第一にあげられる。昭和３５年における浦和・大宮の総人口に対する東京都への通勤者数割合は，各々１６%，１１%であり，又，流出人口中，東京都への流出人口の割合は，浦和７５%，大宮６３%であった。昭和４０年においては，就業者総数に対する流出就業者数割合は，浦和５１%，大宮４３%で，流出就業者の中で県外（主に東京）に流出する就業者数割合は，浦和７９%，大宮６５%であった。最近は両市とも，地価高騰等から宅地化が一段落している。又，工業，商業の発展から両市とも人口吸引力が増し，昼間人口と夜間人口の比は両市とも８８：１００となり，福岡町の６９：１００に比べると昼間人口がかなり高く，昼夜間人口の入れ替わり現象を示している。

工業においては，江戸時代に両市を中心とした地域で綿織物がつくられていた。明治１８年に大宮に停車場ができ，東北線との分岐点となってから，大宮には片倉製糸工場等の大規模な製糸工場が建てられ，特に明治２７年につくられた鉄道の修理工場は，その後の大宮の発展に大きな影響を与えた。さらに，昭和に入って中島飛行機工場，陸軍造兵廠等の大工場が設立され，軍需産業が台頭した。又，中小工場は川口方面に立地し，浦和の工業は伸びなかった。

埼玉県の工業生産高は昭和３４～３５年以降著しく伸びている。この急速な工業発展の担い手は，

伝統的工業ではなく，近代的な重化学工業である。これは京浜工業地帯内部における工場用地取得の困難等から，その解決策として京浜工業地帯の外延的拡大がはかられ，内陸工業地帯として埼玉県域に工場進出が行なわれ，又，現在も行なわれつつあるためで，東京都心から５０ｋｍ圏内にほぼ包含される京埼地域がその中心である。埼玉県の市町村別工業生産額をみても，出荷額が５００億円を越えるものはすべて京埼地域に集中しており，中でも国道１７号線に沿った川口から浦和・大宮・上尾に至る地域が中心地域となっている。両市の工業を詳しくみると，浦和は食料品，精密機械が，大宮は電気機械器具，化学工業が伸びており，又，大宮より浦和の方が軽工業の占める比重が大きいなどの相違はあるが，秩父の織物や川口の鋳物等のように古くから形成された伝統的なものと異なり，日本経済の高度成長に対応し，東京の巨大な影響の下で形成されてきた新しい工業である点で共通している。

商業においても，両市に対する東京の影響の大きいことが第一にあげられる。大宮はその地理的位置や歴史的過程から，浦和よりは明確で大きな商圏を有しているが，それも東京の商圏と重なっている。両市の東京都内流出率は浦和約２０%，大宮約１５%で，金額のはる高級品ほど流出率が高い傾向がみられる。このため，両市では今まで高級品店や専門店があまり育たなかった。最近は，ここに目をつけた中央資本が両市に相次いで進出したり，又，進出の計画をたてている。

以上のように，両市は主に戦後においては東京の膨張に端を発する県南地域の発展と相関して発展しており，その地理的位置及びその歴史過程から大宮の方が埼玉県北と結びつきが幾分強いとはいえ，東京の巨大な力の前に都市の性格としてほとんど差がなくなり，両市をあわせた地域が，首都圏の北部の一中心をなしていると考えられる。

千葉県茂原市の地理学的考察

――特に天然ガス利用による工業を中心として――

市　原　憲　子

本論文の調査地域となっている千葉県茂原市は人口４８,４１１人で，九十九里平野南部に位置し，古くから六斉市が開設され，周辺農村の中心地として栄えてきた。その在郷町的性格から鉱工業都市としての歩みを始めたのは戦後のことで，特に本格的な内陸工業都市としての性格が強まったのは昭和３０年のことである。本論文では，茂原市の工業を中心として，茂原市の地域的特色を把握することにした。

千葉県は天然ガスの産地として新潟県についでいるが，特に茂原市とその周辺地域は千葉県の中